

Kunzo Minami Memorial Museum Collection

自然を映す



南薫造《牡丹》（部分）1948年

2019年12/19(木) ⇒ 2020年5/31(日)

休館日：火曜日(2/11, 5/5は開館, 12/26-1/4, 2/12, 5/7は休館) 開館時間：9:00-16:30

観覧料：一般150(120)円、高校生90(70)円、小・中学生60(40)円

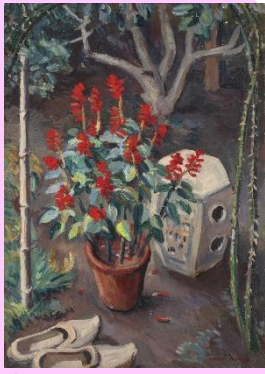
* ()内は20名以上の団体料金。呉市に在住、または通学する小・中・高校生は無料。
広島中央地域連携中枢都市圏(竹原市・東広島市・江田島市・熊野町・海田町・坂町・大崎上島町)の小・中・高校生は無料。
呉市いきいきバスをお持ちの方、障害者手帳等をお持ちの方は無料(要証明書)

南薫造記念館
KUNZO MINAMI MEMORIAL MUSEUM

〒737-2519 呉市安浦町内海南2丁目13-10 TEL(0823)84-6421

自然を映す

Kunzo Minami Memorial Museum Collection



1



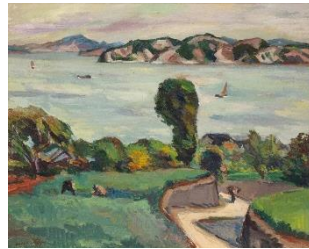
2

南薫造は花を愛し、深い関心を寄せていました。花をテーマにした静物画なども残していますが、自ら花を育てるその園芸熱も相当なものでした。戦前、南が住んでいた東京・百人町の自宅兼アトリエには、信州から白樺を移して植え、ばらやライラック、ランの花を育て、朝顔のアーチをしつらえていたそうです。郷里の広島・安浦町に疎開した後も、庭にばたんや菖蒲の花を植え、丹精込めて育てました。

本展では、そんな南が愛した花の絵を中心に、植物や風景を描いた作品をご紹介します。自然に寄せる南の美意識やあたたかな眼差しとともに、表情豊かに咲き誇る花々をお楽しみ下さい。



3



4

1. 《庭の一隅》昭和初期頃
2. 《読書》1923年
3. 《花》制作年不詳
4. 《須波風景》1946年

小企画①

南薫造と東京美術学校

2020年3月2日(月)まで

南薫造の学生時代の様子がうかがえる資料をはじめ、教授として務めた東京美術学校の貴重な資料を紹介します。

小企画②

絵はがきで見る南薫造の画業-新文展・日展編

2020年1月6日(月)まで

南薫造の学生時代の様子がうかがえる資料をはじめ、教授として務めた東京美術学校の貴重な資料を紹介します。

小企画③

文筆家・南薫造 -『画室にて』より-

2020年2月3日(月)まで

南薫造の随筆集『画室にて』の初版本や、南がデザインした美術雑誌『白樺』のほか、貴重な自筆原稿を展示します。

印度旅行～南薫造が見た風景

2020年3月4日(水)から

南薫造の学生時代の様子がうかがえる資料をはじめ、教授として務めた東京美術学校の貴重な資料を紹介します。

絵はがきで見る南薫造の画業-光風会展編

2020年1月8日(水)から

南薫造の学生時代の様子がうかがえる資料をはじめ、教授として務めた東京美術学校の貴重な資料を紹介します。

画家の自筆原稿を読む-『若き日の肖像』はかー

2020年2月5日(水)から

南薫造が『アサヒグラフ』に寄稿した「若き日の肖像」の自筆原稿などを展示します。



南薫造

南薫造(1883-1950)は、医者の子として広島県賀茂郡内海町(現・呉市安浦町)に生まれる。東京美術学校(現・東京藝術大学)に学び、卒業後はイギリスに留学。帰国後は文展、帝展などで入選を重ね、優雅で温かな画風が高く評価され、帝国芸術院会員や帝室技芸員として活躍した。母校・東京美術学校では教授として後進の指導に当たり、多くの芸術家との交流を通じて日本洋画の発展に貢献した。戦時中から郷里・安浦に居を移し、戦後は広島の美術の発展に尽力しながら、瀬戸内の風景を多く描いた。



【アクセス】

■車利用の場合

呉市内から国道185号線を竹原方面へ。クリアライン 呉ICより約60分。敷地内の無料駐車場をご利用下さい。

■JR利用の場合

JR呉線安浦駅下車、徒歩約900m。

南薫造記念館
KUNZO MINAMI MEMORIAL MUSEUM

〒737-2519 呉市安浦町内海南2丁目13-10 TEL(0823)84-6421